

事例番号:340165

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 28 週 5 日

8:24 下腹部痛、量多めの性器出血のため搬送元分娩機関受診

8:30 頃 超音波断層法で羊水を認めず

9:25 頃- 胎児心拍数陣痛図で高度遅発一過性徐脈を認める

10:25 前期破水のため当該分娩機関へ母体搬送、入院、内診で凝血塊を認める

4) 分娩経過

妊娠 28 週 5 日

10:45 胎位異常、前期破水、陣痛発来のため帝王切開にて児娩出、横位胎児付属物所見 胎盤剥離面に凝血塊付着あり、羊水量少量、胎盤病理組織学検査で胎盤母体面の一部に血腫の付着がうかがわれ常位胎盤早期剥離として矛盾しない所見

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:28 週 5 日

(2) 出生時体重:1200g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.16、BE -11.8mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 6 点

- (5) 新生児蘇生：人工呼吸（バッグ・マスク）、気管挿管
- (6) 診断等：
出生当日 早産児、新生児仮死
- (7) 頭部画像所見：
生後 61 日 頭部 MRI で脳室周囲白質軟化症を認める

6) 診療体制等に関する情報

〈搬送元分娩機関〉

- (1) 施設区分：病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
医師：産科医 1 名
看護スタッフ：助産師 1 名、看護師 2 名

〈当該分娩機関〉

- (1) 施設区分：病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
医師：産科医 2 名、小児科医 2 名、麻酔科医 2 名
看護スタッフ：助産師 2 名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩経過中に生じた胎児の脳の虚血（血流量の減少）により脳室周囲白質軟化症（PVL）を発症したことである。
- (2) 分娩経過中に生じた胎児の脳の虚血（血流量の減少）の原因は、臍帯血流障害または常位胎盤早期剥離の可能性がある。
- (3) 早産期の児の脳血管の特徴および大脳白質の脆弱性が PVL 発症の背景因子であると考えられる。

3. 臨床経過に関する医学的評価（2020 年 4 月改定の表現を使用）

1) 妊娠経過

搬送元分娩機関の外来における妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 搬送元分娩機関において、妊娠 28 週 5 日に下腹部痛、性器出血の訴えで来

院した際の対応(内診、超音波断層法、分娩監視装置およびドップラ法による胎児心拍の聴取)、前期破水で母体搬送の方針としたこと、およびベクタメタゾロン酸エステルトリウム注射液を投与したことは、いずれも一般的である。

(2) 当該分娩機関到着時の対応(内診、血液検査、超音波断層法など)および胎位異常(横位)、前期破水、陣痛発来のため緊急帝王切開を決定したことは、いずれも一般的である。

(3) 帝王切開決定から16分後に児を娩出したことは適確である。

(4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

(5) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

腹痛および性器出血を主訴に受診した妊産婦に対しては、超音波断層法を実施する際には、常位胎盤早期剥離を念頭に置いて胎盤の観察を行い、またその所見は診療録に詳細に記載することが望ましい。

【解説】本事例では、超音波断層法で胎児および羊水量の記載があり、また「原因分析に係る質問事項および回答書」によると、胎盤の位置についての記載はされていたが、胎盤肥厚の有無など常位胎盤早期剥離に関連する所見は記載がなかった。腹痛および性器出血を主訴に受診した妊産婦では、常位胎盤早期剥離の可能性を念頭に置いた観察と記録を行うことが望ましい。

(2) 当該分娩機関

なし。

2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】 本事例では母体搬送後、児が新生児仮死で出生し、重篤な結果がもたらされている。本報告書を踏まえて院内で事例検討を行うことが重要である。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。